

登録コード	E8362400	開講年度	2026					
授業科目	卒業研究					担当教員	榎本 哲士	
英文授業名	Graduation Study					副担当		
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生		
講義室	教育研究室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー 該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】		
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					数学教育学分野に関する研究を遂行することにより体験的に習得した専門的な知見と現場感覚を踏まえ、子どもたちの幸せのために働くことへの意欲を高め、よりよい教育の実現を目指して日々の努力と研鑽を続けることができるようになる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					自分の研究の遂行や論文の論理構成に必要な情報を、先行研究など文献からよみとり、活用したり、活用を通して数学教育に関する知識及び技能を深めたり高めたりすることができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	授業はゼミナール形式で実施し、その中で研究課題に関する発表、質疑応答、討議を行う。また、卒業研究への取り組みの中で、文献の適切な解釈や教材研究／教材開発等の理論的考察の方法、及び調査等の実証的考察の方法を習得する。							
(5)授業計画	各自の興味・関心に基づき、数学教育上の諸課題に関わるテーマを選択し、研究課題を設定する。次に、研究を進めるにあたって必要となる文献等を収集する。そして、文献解釈や教材分析／教材開発等の理論的考察、さらには必要に応じて調査等の実証的考察を行うことを通じて、自ら設定した研究課題の解決を試みる。最後に、研究の成果を卒業論文としてまとめる。もちろん、上記のプロセスは一方的に進むものではなく、振り返って検討してみたり、一応の解決が得られた後により精緻化したりと、研究の進捗状況に応じて進むものである。 なお、研究室内で討議の他に、他の研究室と合同で卒業研究中間発表会（秋）を行い、より多角的な視野から研究を進められるようにする。最終回に授業アンケートを実施する。							
(6)成績評価の方法	各回の発表（30％）、質疑応答（20％）、及び数学教育学分野の研究に関する卒業論文の内容（50％）によって評価する。 評価割合は、若干の調整を行うことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可。							
(7)成績評価の基準	()大規模調査, ()研究課題と()概念枠組み, ()調査・作業, ()授業改善への示唆, のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表及び討議を行えば「その水準にある」。その上でいずれか一つについて発展的な発表及び討議を行えば「やや上にある」、二つについて発展的な発表及び討議を行えば「かなり上にある」、三つ以上について発展的な発表及び討議を行えば「卓越している」。							
(8)事前事後学習の内容	【事前学習】事前に研究テーマに関連した文献等を図書館などで自主的に検索・収集して調べること。 【事後学習】各回の発表で話題になったことについて、事後に自分で調べて考察を深めること。 各1回の講義あたり事前・事後の学習時間は少なくとも4時間、合計60時間以上は確保すること。							
(9)履修上の注意	特になし							
(10)質問、相談への対応及び連絡先	榎本：随時（メールで事前に連絡） 連絡先：satoshi_enomoto@shinshu-u.ac.jp							
【教科書】	指定しない							
【参考文献】	適宜紹介する。							